

平成 24 年度第 2 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会議事録

- 日 時：平成 24 年 10 月 30 日（火）18：30～20：25
- 場 所：市役所西棟 4 階 412 会議室
- 出席委員：5 名（欠席 3 名）
- 事務局：高齢者支援課、保育課、市民社会福祉協議会

1 開会

2 配付資料確認

事務局より配付資料の説明

3 議事

（1）テンミリオンハウスきんもくせい運営希望団体ヒアリング

【特定非営利活動法人ワーカーズコープ（以下、ワーカーズコープ）】

（プレゼンテーション）

私達は今から 10 年前境 4 丁目のテンミリオンハウスの運営を任され、地域懇談会を 8 回重ね、「皆でつくる皆のきんもくせい」をモットーに、平成 15 年 4 月 15 日からテンミリオンハウスきんもくせいを運営してきました。

武蔵野市はテンミリオンハウスの運営団体に補助をする目的として、「施設の運営を通じ、高齢者へのサービス提供を行い、地域の実情に応じた『共助』の取り組みを行うこと」としています。私達ワーカーズコープは、特に働く仲間同士の協同、利用者やボランティアとの協同、地域・行政との協同という 3 つの協同を大切にしています。私達は「自ら出資し、皆で経営し、皆で働く」という協同労働の協同組合です。一人ひとりが自立して皆で責任を分かち合い、主体的に「よい仕事」を目指し、全国で仲間が働いています。今年、国連が定めた「国際協同組合年」ですが、私達の協同組合は「ICA（International Co-operative Alliance）」のメンバーとして、これまでに自治体が委託する公園緑化サービス、建物管理等を受託し、様々な仕事に取り組んできました。最近では、高齢者の介護予防や元気高齢者づくり、子育て支援、失業者の職業訓練講座、路上生活者や生活保護受給者の就労支援等、市民が主体者となって、まちづくり・仕事おこしに関わるという事業を大きく広げてきました。

今から 10 年前、境 4 丁目のテンミリオンハウスの運営団体を武蔵野市が公募した時、私達は元気高齢者の自立支援と介護予防、社会参加を支え合う「コミュニティケアの拠点づくり」を目指し、1 つはミニデイサービス、2 つめに食の事業、3 つめに地域の担い手養成、最後に助け合い・生活支援の事業を行うというテーマを提案しました。この 10 年間、ミニデイサービスを中心に食の事業については充実させることができたと思いますが、地域の担い手養成、助け合い事業については残念ながら十分とは言えないと感じています。

ミニデイサービスについて、きんもくせいでは年間延べ 6,000 人の方が利用し、700 人以上のボランティアが関わっています。登録している約 170 人の利用者の 3 分の 2 に当たる 100 名以上の方が 75 歳以上の後期高齢者となっています。男性も女性もお洒落をして来所されます。利用者の皆さんは大変お元気で、パソコン教室は週 5 回、健康麻雀は週 3 回、その他、絵手紙、書道、水墨画、パステル画、手芸、編み物、折り紙、ちぎり絵、ビーズ、心のアトリエ、コーラス、歌の会といった様々なプログラムに参加しています。利用者ばかりではなく、地域の方々にもイベントに関わっていただいています。利用者からは、「きんもくせいがあるから元気でいられる」「他にはないテンミリオンハウスがある武蔵野市は福祉がとても行き届いている」といった声をよく聞きます。良いことばかりではなく、来所中に具合が悪くなり、ご自宅まで送るというケースもありました。しかし、日ごろから桜堤ケアハウス在宅介護支援センターと連携していたこともあり、在宅介護支援センターへ連絡したところケアマネジャーがすぐに利用者宅へ伺い、様子を見てくれました。定期的に情報交換していたことが非常に役に立った一件です。

きんもくせいのランチは、月曜日から金曜日までの毎日、スタッフが作る家庭料理を 500 円で、飲み物付で 1 日平均 10 食程度提供しています。料理のアンケートをとり、献立のリクエストを聞くと、意外と和食ばかりではなく洋風やエスニック風料理も好評でした。更に、調理師や栄養士の経験を積んだスタッフの努力もあり、ランチだよりを発行してメニューと共に食に関わる知識やレシピもお知らせしてきました。一人暮らしの方もよくランチを利用します。楽しくおしゃべりをしながら食べるバランスのとれた手づくりの家庭料理は、健康長寿の大きな力になっていると実感します。

きんもくせいでは、「小さな庭プロジェクト」を実施しています。毎月、ご近所の方や利用者に参加していただき、園芸講座を兼ね、1 年がかりできんもくせいの小さな庭をきれいにしようと取り組んでいます。教えてくれるのは 88

歳の男性利用者です。夏みかんの木がなると、毎年利用者とマーマレードを作っています。食に関するイベントは、健康増進に効果的です。

きんもくせい建物のものは、他のテンミリオンハウスと比べてもコンパクトなつくりとなっていますが、2つの部屋とキッチン、小さな庭を活用し、地域になくってはならない施設になるよう努力したいと思います。

地域のネットワークとしては、在宅介護支援センターと日ごろから連携している他、境福祉の会でも運営委員会や市立第二小学校の昔遊びなど各種行事に参加、更に西部コミュニティセンターでも協力員としてふれあい祭りや文化祭の実行委員会に参加しています。

市内中学生の体験学習、亜細亜大学のボランティア講座や武蔵野大学看護学部の実習生受入にも積極的に取り組んでいます。

この10年間で、ミニデイサービスを中心とした食の事業や地域とのネットワークづくりは、ある程度充実させることができたと思いますが、地域の担い手養成と助け合い事業については、次の5年間で実現していきたいと考えています。

地域の担い手育成として、これまで在宅介護支援センターや歯科医師会などにご協力いただき、認知症サポーター養成講座、口腔ケア講座、介護保険講座などを実施してきましたが、更に、これからはきんもくせいを拠点に様々な地域の担い手養成講座を開講し、地域で支え合いの活動に参加する新たな人材を発掘したいと考えています。例として、くらしのサポーター講座やボランティア講座、やさしい介護講座など、私達の一般社団法人日本社会連帯機構には様々なプログラムがあるので、そういったものを活用して講座を実施していきたいと思っています。

助け合いの生活支援事業について、例えば境4丁目では現在町内会をつくりたいという地域の動きがあり、他にも、地域福祉の会と連携し市民主体のコミュニティビジネス・地域密着の新しい事業創設へと発展させることを考えています。更に、くらしのサポーター講座修了生等できんもくせいや地域の応援団をつくり、地域の安全・安心のための助け合いの活動や事業を立ち上げていきたいと考えています。きんもくせいへの今回の応募の動機として、私達は市民が協同して地域を豊かにするために、市民自治を高める場にしてまちづくりの取り組みに発展させたいと考えています。

最後になりますが、これからの取り組みとして、10年間で実現できたことや取り組んできたこと、課題となっていることが色々ありますが、ミニデイサー

ビス・食・地域の担い手養成・助け合い事業を大事にし、これからも地域の共助のために「皆でつくる、皆のきんもくせい」を合言葉に、この施設を市民自治を高める場として、まちづくりを皆で取り組んでいきたいと思ひます。

(質疑応答)

【副委員長】 市民自治の拠点となることについて、テンミリオンハウスが担う内容としては唐突な感じがします。その辺りについてもう少し具体的にお伺ひしたいと思ひます。また、防災のことについて特に触れられていませんでしたが、防災推進委員や民生委員の方々をお世話役として立ち上げる「独歩の会」のことに絡めて伺ひたいと思ひます。

【ワーカーズコープ】 昨年の夏ごろから、きんもくせいに地域の防災推進委員や民生委員の方がお見えになり、地域の防災や災害時要援護者支援のネットワークの話などを教えていただきながら、「町内会をつくりたい」というお話をいただきました。それをきっかけに、消防団の方に来ていただくことや、防災訓練講座の開講を通じ、高齢化の進んだ境4丁目において緩い繋がりの中で皆が交流できるような場になればという願ひもあり、来年4月を目途に「独歩の会」を立ち上げていこうという話になりました。武蔵野市には様々な福祉のシステムがありますが、市民が主体となってという形はこれではできないのかと考へ、是非その仲間に入れさせてほしいと考へています。

【副委員長】 「独歩の会」というのは何を指してつくられるのでしょうか。

【ワーカーズコープ】 地域には地域福祉の会がありますが、どうしても行政の様々な行事をこなすことが中心となってきていると感じています。境4丁目には1番から13番くらいまで番地があり、その番地の一人ひとりに対して「お世話人」としてお願いし、いわゆる町内会のようなネットワークをつくらうと話しています。それについては、独歩の森が近いことから「独歩の会」と名付けました。

【副委員長】 私設町内会の名前という理解でよろしいでしょうか。

【ワーカーズコープ】 はい、その通りです。

【委員】 年間開設日数について伺ひますが、今回の事業提案書では270日を予定として出されています。しかし、平成24年度の事業計画書では、300日でした。かなり減っていますがその理由についてお伺ひします。また、市民が主体となるコミュニティビジネスについてお話がありましたが、具体的な内容について伺ひたいと思ひます。

【ワーカーズコープ】 まず事業提案書に書かせていただいた年間開設予定日数の270日につきましては、数え間違いがありまして、正確には280日を超える形になると考えております。300日に対して減った部分は何かと申しますと、これまで祝日を閉館しておりましたが、その祝日を閉館するという考えでそうになりました。私達は1つの提案として今回提出させていただいていますので、今日の委員会での意見も検討させていただければと考えています。

コミュニティビジネスについてはまだ構想段階ですが、くらしのサポーター講座を修了した方に、まちの便利屋さんとして「ワンコインで困りごとをお助けする」といった活動をしていただくことを考えています。例えば、家の電球の交換ができなくて困っていることがあった場合、くらしのサポーター講座修了者に繋ぎ、ワンコインで電球を交換することなどを考えています。

【委員】 280日は超えるという説明でしたが、それでも今までの運営より開設日数が減っています。まだこれから開設予定日数を増やすことも考えられるのでしょうか。また、コミュニティビジネスについては具体的に誰が事業を行うのでしょうか。きんもくせいが行うのか、それともそのような団体を立ち上げる支援をするのでしょうか。

【ワーカーズコープ】 280日については、現在の運営では閉館日が日曜日と年末年始となっていましたので、祝日も含めることを提起させていただいております。私達としては、基本的にできる限り開設する方向で考えておりますが、祝日を利用する方が少ないこともあり、その中で1つの提案として今回出させていただいております。280日よりもう少し開設すべきだというお話でしたら、こちらとしても検討したいと思っております。

コミュニティビジネスについては、生活のちょっとした困ったことを支援するという生活総合支援を実施する中身となっていますので、事業主体としてはワーカーズコープが行っていきたいと考えています。その中で、現在働いているきんもくせいの仲間以外のところでも担い手養成講座を含めて行っていきたいと考えています。

【委員】 ワーカーズコープが事業主体ということならば、収入はワーカーズコープに入るということでよろしいでしょうか。

【ワーカーズコープ】 大きな事業にはならないと思いますが、基本的にはテンミリオンハウスきんもくせいの事業の延長線でやっていけたらと考えています。

【委員】 ご説明いただいたコミュニティビジネスについて、少し趣旨が違う

のではないかと思います。テンミリオンハウスとしての事業というよりは、ワーカーズコープの事業という感じがします。また、年間で様々なプログラムを実施していますが、各プログラムの参加者はどの程度いらっしゃるのでしょうか。講座の数や地域での広がり具合など書かれていますが、実際に講座を開いても講座を利用する方がどの程度いるのかということも講座を推進していく上でのポイントになると思います。

【ワーカーズコープ】 コミュニティビジネスについて、あくまでも地域の困りごとにこたえていくという趣旨で考えています。ちょっとしたことがご自分ではできなくなっている方にとって、専門の業者を呼ぶまでもないようなケースが多くあるので、そのようなちょっとした困りごとに対応していきたいと考えています。また、その場合無料だと利用者は気が引けてしまうのではないかと思います、100円や200円程度で頼めることをお手伝いするという考えでいます。よって、その事業で金儲けをしようという考えではありません。

【委員】 イメージは伝わりますが、何となく違和感を覚えます。テンミリオンハウス事業とは、テンミリオンハウスを拠点として、地域住民の方に来ていただき、講座等を通じて介護保険制度の狭間をフォローするというイメージがあります。一方、コミュニティビジネスの内容からいきますと、その事業を行うことでスタッフが外へ出ていくことになるのではないかと思います。その「行く」ということによって、テンミリオンハウス自体が手薄になるという可能性もあるので、テンミリオンハウスに来られた方をメインにしていくのか、外側をメインにしていくのかということによって、趣は変わってくると思います。

【ワーカーズコープ】 基本はテンミリオンハウス事業を中心に行っていく前提があります。その中で、生活支援事業は誰が行くのかと言った時に、現在のスタッフで全てを行うことは難しいので、地域の担い手養成講座を行いながら募集をしていきたいと考えています。それと共に、テンミリオンハウスは地域の元気な高齢者の居場所となっているので、私達も全国で介護予防の実践をやっていることから、まずそこがあつての事業と考えていただければと思います。

【委員】 そうしますと、地域の人達に働いてもらって、その収入はどこがとるのででしょうか。そのワンコインはどこへ行くのでしょうか。

【ワーカーズコープ】 ワーカーズコープではこれまでちょっと困ったことへの対応として、訪問介護現場で「ちょい困サポート」というのを行って、介護保険では対応できないちょっとしたことについて助けるということを行っ

ていました。今回のコミュニティビジネスでは、担い手養成講座を経て、一般社団法人日本社会連帯機構から修了証を得た方にサポーターとして登録し、きんもくせいでその方達を繋ぎ、実際にはその繋いだ部分の手数料はいただくかもしれませんが、ほとんどはサポーターの収入になるかと思います。

【委員】 要するに幹旋収入を得るということですね。

【ワーカーズコープ】 とは言え、困ったことについてこちらへ電話等が来ますので、その対応に関する部分の収入は必要かと思います。

【委員】 テンミリオンハウス事業が目指している方向性と提案された内容についてはやはり少し趣旨が違うように感じます。

別の質問に移りますが、無償ボランティアの実績が書かれています、そのボランティアの方からスタッフになった方はいらっしゃるのでしょうか。何故かと言いますと、地域の方がボランティアで来られているのであれば、スタッフ名簿の中に書かれている市内在住の新規採用予定者について、もともと地域の方で地域のことをよく知っているボランティアの方がスタッフになるという可能性もあるのではないのでしょうか。

【ワーカーズコープ】 あるものと考えています。

【委員】 できる限りそのような形で検討していくということが、地域の担い手を養成することに繋がるのではないかと思います。スタッフの中に市外の方が多くいるよりは、市内の方が多くいた方が地域の中での繋がりができると思います。また、地域の担い手とはそういうところから出てくるのではないかと思います。

【委員】 事業資金計画の中に寄付金収入がありますが、100,000円を計上しているのには何か予定があるのでしょうか。

【ワーカーズコープ】 昨年度の実績ベースで計上したのですが、よく考えますと昨年度は寄付金とは別に東日本大震災の被災地支援の募金を行っており、その流れできんもくせいへの寄付も行ってくれた方が多かったため、その実績となりましたので、実際にはそこまでの収入は見込めないと思います。

【委員】 東日本大震災の募金は、きんもくせいで集めて被災地へ送ったということよろしいでしょうか。

【ワーカーズコープ】 東日本大震災の募金箱ときんもくせいの募金箱が昨年は2つ置かれており、東日本大震災の募金はもちろん被災地へ送っています。募金箱が並んでいた関係からか、その流れできんもくせいへの寄付も行ってくれたため、実績が増えたと考えています。

【委員長】 昼食の提供として毎日 14 食を上限としているようですが、上限を 14 食と定めた理由について伺います。また、土曜日の昼食はどのようにされているのか伺います。

【ワーカーズコープ】 昼食は月曜日から金曜日まで提供しています。14 食の上限は、メインルームで座る席が 14 席しかないことから、そのように予約を受けています。

【委員長】 土曜日の利用者の方は昼食をどのようにとっているのでしょうか。

【ワーカーズコープ】 土曜日にはあまり講座が入っていないのですが、来館された方は午前中のコーラス等の講座のみ参加し、自宅に帰ってお昼を召し上がります。

【副委員長】 テンミリオンハウス事業の基本は、提案された 4 つの事業の内のミニデイサービスと食の提供となりますので、地域の担い手養成と助け合い事業はこれまでの運営で成し遂げることが出来なかったという点で今回力が入っていたと思いますが、担い手を養成することは結構なこととしても、そこから事業へと展開するのは、そこまでテンミリオンハウスが行うことなのかという疑問があります。その点は担い手の方が育ったら、担い手方達が自主的に実施し、きんもくせいはそこを支援する、またはマネジメントする程度であれば良いのではないかと思います。

また、事業資金計画書の事業収入を見ますと食事費収入等で 1,290,000 円計上されていますが、事業支出を見ますと利用者の処遇に直接要する費用として計上されている金額が 838,200 円と他のテンミリオンハウスと比べてもかなり開きがあると思います。利用者収入は受益者負担ということもありますので、それに伴う事業支出もその収入と同程度となるような収支設定をしていただきたいと思います。

【ワーカーズコープ】 ご指摘いただいた点につきましてはバランスが取れるよう内部で検討したいと思います。

【委員長】 審議に関わることなので、もう一度簡単に基本的な考え方について整理してお話しただけですでしょうか。

【ワーカーズコープ】 利用収入と支出の面については、受益者負担ということを考えますと基本的には収支のバランスを取った方が良いという方針でいます。今回開きがあったところについては、これまでの実績を見て計画を出したこともありますので、実績ベースから見直しを図らなくてはならないかと思いますが、実績を見て計画を出したことからこのような開きが出てしまったと考

えています。

（２）テンミリオンハウス花時計運営希望団体ヒアリング

【ゆう3（ゆうスリー）】

（プレゼンテーション）

皆様こんばんは。平成25年度以降のテンミリオンハウス花時計の運営を希望している団体のゆう3です。

世代間交流テンミリオンハウスということで、高齢者にはミニデイサービス、2階では乳幼児るーぷる広場、児童には1階の和室で茶道、2階の多目的室で箏曲の講座を行います。0歳から100歳まで誰もが集える地域の居場所です。

運営団体のゆう3は、小学校のPTA活動から生まれたグループです。ゆう3は、優しい心で、遊び心を持って、心に余裕を持って世代と世代を繋げていくという気持ちで活動しています。その活動は3倍ではなく、限りなく広がって欲しいという私達の願いから、3乗にしました。

これまでの活動について紹介します。体操講座やうたの講座への参加者はご高齢の方が多く、健康には気遣っており、大きな声を出すことや体を動かすことを心掛けています。絵手紙では、お子様をおんぶしたり、スタッフがお子様を見守る中で、ママ達も一緒に講座を行っています。お子様が2人いても、気兼ねなくお茶を飲むのも花時計の特徴です。たらいプールは大人気ですが、プールが始まりますとお湯の準備等でスタッフは汗だくの1日となります。2階のるーぷる広場は、祝日になりますとお父様もいらっしゃって、普段お子様がどのようなところで遊んでいるか確かめて安心しています。ママの手芸講座は、お子様と一緒に情報交換やおしゃべりをしながら作品づくりをしています。英語と歌で遊びましょう講座では、英語で歌を歌うことや英語のゲームをしますが、英語で歌を歌いたいという93歳のお婆ちゃんもいらっしゃって、一緒に実施しています。

昼食はリビングで高齢者、乳幼児親子一緒に皆でいただきます。お子様の発する一言で自然に笑顔が生まれ、会話も弾んで和やかな雰囲気でお食事をすることができます。私達の心の栄養にもなっています。

講座とは別に、囲碁の準備をしているので、ふらっと立ち寄って楽しんで行かれる方もいます。また、講座の隣では、ママ達のティータイムでおしゃべりに花が咲いていますし、イベント後のティータイムでもお話が弾んでいます。

児童の伝統文化継承講座ですが、伝統文化を大切に、次世代に繋げていきたく

いという私達の想いから、児童へは茶道と箏曲の講座を行っています。

イベントは、多方面に亘り数多く実施しています。例として、プロのオーケストラメンバーによるコンサートや大学生によるコンサート等を実施しています。世代間交流イベント「花時計であそぼ」は毎年4月に行っており、地域の方々のご協力のもと、日本の文化である折り紙や昔遊びを中心に食事提供なども行っています。小さいお子様から高齢者まで、どなたでも楽しめるプログラムになっていますので、皆さんと一緒に楽しんだ後、三世代一緒のお食事は、心が温まり和やかになるものです。

ご説明しました通り、自然な形の中で日常的に交流が行われております。今まで花時計をご利用していたママ達も、お子様が幼稚園や保育園へ通うようになると、今度は楽しかった花時計のスタッフとして働きたいというお申し出があり、今年は3名の方がスタッフとして加わりました。このように、ごく自然な流れの中で次に繋がっていくことができます。

今後に向けて、花時計のご案内を開所当時全戸配布しましたが、改めて花時計の地図や予定表をスタッフがコミュニケーションを取りながら手配りたいと考えています。その時に、地域の方達のニーズを把握し、それを今後の花時計の運営に役立てていきたいと思っています。

花時計だよりの発行について、今までメニュー表と予定表を発行し、地域の掲示板に貼ることや公共施設に置くなどして広報活動を行ってききましたが、次年度からは講座や利用者の様子、講師の紹介なども加え、読みやすく、関心を持ってもらえる内容で発行したいと思います。また、私達は発行に際する記事の構成や発行までの作業の基礎知識等の研修を受講しております。

利用者との会話を大切にということについて、最初に来館された際に登録票に記入していただきますが、それだけではなかなかその方を理解することは難しいのが実態です。日ごろから利用者との会話を大切にすることによって、その方のバックグラウンドを理解して、その方に合った対応をしていきたいと思っています。

児童講座修了生のボランティアのきっかけづくりについて、茶道・箏曲・手芸の修了生が高校生など40名程おり、その方々にイベント等のお知らせをして、お手伝いをしていただこうと考えています。それによって、様々な年代の方と繋がることができ、また、ボランティア活動のきっかけづくりになると良いと思っています。

伝統文化の継承について、児童には茶道・箏曲の講座を引き続き行います。

日本の文化である折り紙や昔遊びのコマ回し、めんこ等を通して、日本古来の伝統文化も次世代へ伝えていきたいと思っています。

私達は相手を思いやる「おもてなしの心」を大切に、利用者へは居心地の良い空間・居場所の提供を常に心がけ、笑顔になって帰っていただくことをモットーに活動していきます。多くの方々にご利用いただき、地域の方々に助けていただきながら、地域の中に溶け込み、地域に根付いた花時計になりました。これからも今までの事業を継承しながら、地域の皆様と一緒に花時計を運営していきたいと思しますので、宜しくお願いいたします。

(質疑応答)

【副委員長】 乳幼児利用者のお母さんがスタッフになられたとのことですが、名簿で言いますと9番、10番、11番の方でしょうか。

【ゆう3】 はい、そうです。お一人はこの4月から、もう一人は9月、3番目の方はこの10月からとなっています。

【副委員長】 利用されていた方がこのようにスタッフとして活動され、世代を超えて繋がっていくことは素晴らしいと思います。もう一つ感心したこととして、児童講座修了生にこれから声をかけていくとのことですが、これは今後は是非実施していただきたいと思います。また、イベントの時だけのお手伝いではなく、ボランティアスタッフとして本人達がやる気を持てるような処遇をし、運営の一部を担ってもらえるようになれば更に良いと思います。

5年間の目標の最後には「引き続き世代間交流の講座やイベントを通し」とありますが、これまでの活動を見ますと「花時計であそぼ」という年1回の世代間交流イベントが1番の目玉となっていますが、昼食の他に日常的な世代間交流の活動を今後は考えていただきたいと思います。

【委員】 お話を伺いますと、施設運営がしっかりしていていつも感心させられます。事業計画書の地域ニーズの捉え方において「高齢者が一人ではなかなか利用しづらいコミュニティセンターと違い、気軽に利用できる居場所が家庭以外にもあることが重要」と考えているようですが、利用者と講師の繋がりはあると理解しておりますが、スタッフと利用者の繋がりはいかがでしょうか。最初の登録時だけではなく、日常で心がけていることがあればお聞かせください。

【ゆう3】 同じ地域に暮らしているのも、同じ環境で価値観を共有できることから、利用者をよく知り得る機会があり、その方に合った対応ができている

と思います。また、私達は「おもてなしの心」を常に心がけていますので、必ず来所された方にはお声かけをして、お話をしているので、皆さんスタッフと会話をして帰られるようになっていきます。

【委員】 世代間交流事業が非常に功を奏した形でアルバイトスタッフが加わった点について、やはり若い方が来ることができる場所を提供しないと難しいのかなと考えていましたが、現在の施設運営にうまく適合した形になったと思います。

現在の利用者について、どの地域から通われているかが分かる資料はありますか。

【ゆう3】 資料は特にありませんが、登録票から見ますと境南町の方が一番多いです。そのほか、境・緑町・吉祥寺本町・桜堤から来られています。

【委員】 結構広い範囲から来られていることが分かりました。それだけ居心地が良いのかもしれませんが。そういったところもまた少し調べていただいて、ニーズを把握すると共に交通の便等に問題がないか調べてみるのも良いと思います。いずれにしても、世代間を超えた連携がうまく取れていると感じました。

【委員】 若いスタッフの方が入られたことや児童講座を修了した高校生等にお手伝いに来ていただくことは、事業に繋がりがあって大変良い結果が出ていると感じました。

年間利用者数については、平成23年度の実績とほぼ変わっていませんが、食数が1日平均一人分程度増えているのではないかと思います。その見込みがあるということでしょうか。

【ゆう3】 平成24年度の実績を踏まえ、食事に来られる男性利用者が増えているため、それを見込んだ上で数字を出しました。

【委員】 その食数については対応ができるということでしょうか。

【ゆう3】 はい、対応できます。

【委員長】 関連して参考までに教えていただきたいのですが、キャンセル料なしで昼食は当日午前10時までの予約としていますが、これはかなり厳しいのではないかと感じます。実際にはどうでしょうか。

【ゆう3】 細やかな対応を心がけていますので、私達はスタッフも利用者と同じく500円で食事をいただいていることから、急に食事をとることになった場合はその分を利用者に出すこともあります。よって、申し込みいただければ必ず対応するようにしています。

【委員長】 そういった意味では、無駄になることはないということですね。

【ゆう3】 はい、そうです。

【委員長】 手芸講座について、手芸1が高齢者向け、手芸2が乳幼児親子向け、手芸3が児童、手芸4が高齢者向けとなっていますが、それぞれの講座の内容について教えていただけますでしょうか。

【ゆう3】 手芸1は編み物、手芸2も編み物ですが、お子様もおりますので短い針で教えています。手芸3は児童の希望に沿って行っています。なお、現在の児童の手芸参加者は小学校4年生と5年生なので、その学年が作ることができる内容で行っています。手芸4も手芸1と同様に編み物をしています。

【委員長】 年間通して編み物を実施しているのでしょうか。

【ゆう3】 はい、そうです。

【委員長】 そうしますと、手芸3の児童に対してはその都度内容が変わるといえるのでしょうか。

【ゆう3】 はい、そうです。毎回違うものを作るよう、また、お子様が楽しんで作り、お家に持って帰ることができるようなもの考えて指導しています。

【委員】 花時計の案内を手配りで地域の方に配布し、地域ニーズを把握しながら行うということですが、この内容は非常に良いものだと思います。なかなか行政でもできないことですし、事業計画書の中にも「居場所」という表現が何箇所かに見られますが、居場所があって地域の中で活動される方がいたとしても、「誘い出す人」がいないと繋がっていかないと思います。そういった意味でも、非常に良い取り組みではないかなと思います。

(3) 推薦団体決定討議

【委員長】 それでは採点結果の集計表が出ましたので、それを基に協議したいと思います。採点結果としましては、テンミリオンハウスきんもくせいの運営希望団体「特定非営利活動法人ワーカーズコープ」は513点、テンミリオンハウス花時計の運営希望団体「ゆう3」は542点でした。

【副委員長】 満点はいくつになるのでしょうか。

【事務局】 本日の出席委員は5名なので、675点になります。

【副委員長】 それぞれ現運営団体1団体ずつの応募ですので、実績を踏まえてもよほどのことが無い限りは継続で問題ないと考えています。その中で、ゆう3については概ね問題ないと見ていますが、ワーカーズコープについては面接の中で話が上がった開設日数について、これまでの実績より減っておりますのでその是正をお願いしたいと思います。また、4つの事業の話がありました

が、助け合い事業についてはテンミリオンハウス本来の事業とその発展した事業との整理をしっかりと行って欲しいと思いますので、そのようなことを伝えたくて継続いただければと思います。

【委員】 ワーカーズコープの面接については、もう少し現場スタッフのご意見を伺いたかったと思います。団体本部の方が意見を言うよりは、現場の方が知恵を絞って運営していくというスタンスの方が良いのではないかと思います。本部の運営方針に従って運営していくというイメージが強いので、その辺りは是正できないのかと感じました。

【副委員長】 事業主体がワーカーズコープということから、面接の中で本部の方が加わることは、その団体の責任として出席しているので特に問題ないと考えます。

【委員長】 事務局に伺いますが、運営団体の決定通知を出す際、意見を付けて出すことはできるのでしょうか。条件ではなく、こちらから方向性等について吟味していただく旨の意見を付けることは必要だと思います。特に今回のワーカーズコープにつきましては、それが必要だと思います。面接の中では、質問しても疑問が残る回答が多かったと感じています。

【事務局】 意見を付して結果通知を出すことはできると思います。

【委員長】 例えば、1日平均の利用者が20人であるのに対し、昼食の提供が14食までとされているので、不足分はどのように対応しているだろうかという疑問が残りました。また、質問しましたところ、厨房の能力が無いということならばまだ理解できましたが、スペースがないという回答でした。建物利用計画図からしますと、それは恐らく「洋室1」のことであり、「洋室2」を活用するなど柔軟な対応はできると思います。そういった点が伝わってこなかったと思います。一方、ゆう3の場合は当日午前10時まで昼食の予約を受け付け、柔軟に対応しています。ワーカーズコープの場合は前日までの予約となっています。前日予約で20人分必要だった場合にはどのように対応しているのか疑問が残りますので、そのような意見は付けていただきたいと思います。

【委員】 ワーカーズコープについては、事業を行うことが重要という印象を受けました。もう少し地域の利用者主体の内容というのが見えてくると良かったと思います。

【委員】 ワーカーズコープの食数について、ゆう3の食数と比べますとゆう3は1日平均11食の提供なので、14食というのは決して少ない食数ではないと思います。ゆう3については、昨年の実績が1日平均10食であり、今回の提

案ではそれよりも1食分多かったのですが、その対応について質問しました。ワーカーズコープのコミュニティビジネスについては、目的が明確であり、収入をきんもくせいの事業のために使うのであればまだ理解できましたが、今回の提案では場当たりの印象を受けましたので、整理が必要であると思います。また、担い手を育てていただくことは良いと思いますが、講座を受けた方が戻ってきた時に、どのような受け皿を用意するのかという点まで考えて欲しいと思いました。

【副委員長】 ワーカーズコープの食数について、利用者平均20名に対し、14食上限という食数には差があるという話がありましたが、現実的には必ずしも利用者全員が食事をとるということではないと思いますので、前日予約で14食を超えた場合の柔軟な対応という点をしっかり行っていただければ良いと思います。

【委員】 ワーカーズコープは、新しい事業を行うことに重点を置いていたと感じました。現在の事業をより充実させるということより、テンミリオンハウス事業が担うべき内容ではない事業への発展に力が入っていると感じました。

【副委員長】 見方を変えれば、開設当初に計画していた4事業の内、この10年間で実施できなかった担い手養成事業と助け合い事業に力が入ってしまったのではないかと思います。方向性としては良いと思いますが、単純に事業へと結び付け過ぎたかなという印象がありますので、もう少し区分けをしっかりとって欲しいと思います。

【委員】 ワーカーズコープはマーマレード作りなど様々なイベントを行っていますが、そのような事業を行うだけではなく、その事業の中に若いお母さん等が参加できるような企画がもっとあると良いと思います。その辺りを上手くマッチメイクして地域のイベントを実施すると、地域の若い方が参加してくるのではないかと感じました。

【委員】 ゆう3について、案内を自分達で配布することは非常に良いことだと思いました。単純な話ですが、場合によっては引きこもっている高齢者がいるかもしれませんし、ニーズ把握という点では行政へのサービスへ繋がるかもしれません。そういった点では、テンミリオンハウスらしい事業をしていると感じました。

【委員長】 ワーカーズコープの場合、どのような形で地域の方達に事業内容を周知しているのかという点を聞き損いましたが、花時計へ以前現場を視察した時はスタッフの方からも事業内容の周知徹底方について強調されていました。

きんもくせいへ視察した時はスタッフの方も明確ではありませんでしたが、ゆう3の自分達で案内を配布するということは、ニーズ把握という点でも本当に素晴らしい取り組みだと思います。

【委員長】 それでは、推薦団体について決定したいと思います。これまでの審議内容からテンミリオンハウスきんもくせいの運営に係る推薦団体は「特定非営利活動法人ワーカーズコープ」、テンミリオンハウス花時計の運営に係る推薦団体は「ゆう3」といたします。なお、ワーカーズコープに対し、この審議で出された意見については、事務局で整理し、高齢者支援課長の責任において通知していただければと思います。

（４）子どもテンミリオンハウスあおばについて

【事務局】 子どもテンミリオンハウスのあおばについて、5月28日の第1回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会であおばの建物自体の老朽化についてご報告させていただいた後、耐震診断の結果によっては事業中止も含めて検討すべきという委員会のご意見を深く受け止め、この間、事業主体である特定非営利活動法人保育サービスひまわりママ（以下、ひまわりママ）のあおばの事業担当者とも今後の事業展開について確認を行いました。その内容としましては、現在のあおばを閉館し、新しく事業を行うことができる場所があるかどうか、また、現在のあおばに対し、一定程度の耐震補強工事を行うかという2点で検討しました。検討した結果、現在のあおばの耐震補強工事を実施することとしました。

耐震補強工事に至るまでに、代替えの場所として市内の寄付物件等をすべて確認しましたが、それらの物件につきましてもあおば同様老朽化が進んでおり、耐震性についても疑問が残るものでした。また、現在グループ保育室という展開をしているため、UR物件やマンションでの展開も検討しましたが、1階での展開が必要なことや、現在のあおばがある吉祥寺北町からはかなり離れた場所での展開となってしまうことから、利用者への影響が出ることを懸念されるため、現在のあおばに対し、一定程度の耐震補強を実施するという結論に至りました。

耐震補強の内容については、大きく分けて2つあります。それは、前回の総合評価でも問題となっていた建物自体に柱が少ないという点に対する壁の補強、また、屋根等が重いという点に対する基礎部分の補強です。基礎部分の補強については、古い建物なので柄の上に乗っているようなものですが、すべてコ

ンクリートを流し込み基礎部分との一体化を図りました。壁の補強については、構造用合板張りにより壁の耐力自体を増やしたということになっております。これらの補強を実施した結果、耐震の状況としましては倒壊の危険性を無くした形となり、事業主体からも「この状況ならば運営ができる」という話も受けました。

実際の工事につきましては、本年9月13日から26日の間、実質営業日としては10日ほど施設を閉館して実施しました。その間の代替えにつきましては、一時保育等でどうしても必要となった場合、事業主体のひまわり保育室等で対応するという形で利用者との調整もし、閉館中の問題が無いよう努めました。

以上になりますが、子どもテンミリオンハウスあおばにつきましては、現在の建物に対する耐震補強工事を行うことで運営していくこととし、補強工事が終わりましたことをご報告いたします。なお、最終的なあおばの運営につきましては、建物の老朽化という問題がありますので、新たな実施場所も含めて検討していきたいと考えています。但し、現状の家主との契約である平成25年9月までの耐震性は問題が無いものと考えています。

【副委員長】 耐震性の基準として「1」という数字が震度6強の地震に対して倒壊しないレベルとされていますが、今回の耐震補強を行った結果、数字的にはどのようなになったのでしょうか。

【事務局】 大体の目安となりますが、大地震に対する倒壊の恐れは少ないというレベルになっています。特に、コンクリートを流し込んで基礎と一体化した基礎部分の補強を行っていますので、かなり耐震性が強まったものと理解しています。また、利用者が過ごすプレイルームと和室の辺りに補強を行いましたので、利用者の導線というところでは高い数値を得ることができました。

（５）その他

第3回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会の日程調整について、事務局より説明。

4 閉会

以上